

越前市政報告

越前市長 奈良俊幸

本年（平成28年）は、8月に開かれたリオデジャネイロオリンピックのフェンシング・エペ種目に、越前市出身の佐藤希望選手と見延和靖選手が出場を果たしました。

2人の活躍を願い、越前市では6月26日に壮行会と激励会を開催し、壮行会には約200人、激励会には約240人の市民が出席して、両選手に熱いエールを送るとともに、7月6日から19日までの学校給食に、オリンピック開催国ブラジルの代表的な料理「フェジョアーダ」を出すなど、気運の盛り上げに努めました。

佐藤希望選手が出場した8月6・7日（以下、日本時間）は、式部ふれあい館で佐藤選手を応援するパブリックビューイングを開催しました。

6日午後9時に始まった初戦は、メキシコのアレハンドラ・テラン選手に15対12で逆転勝ちし、佐藤選手はオリンピック初勝利を上げました。

午後10時15分からの2回戦では、世界ランキング3位のロシアのタチアナ・ログノワ選手を延長戦の末、15対14で撃破するとともに、翌7日午前零時30分からの3回戦では、ロンドンオリンピック金メダリストのウクライナのヤナ・シェミヤキナ選手を11対8で破り、ベスト8入りしました。

しかし、午前1時45分からの準々決勝では、優勝したハンガリーのエーメセ・サス選手に残念ながら4対15で敗れました。

佐藤選手は、ロンドンオリンピック出場後に結婚・出産し、子育てをしながら鍛錬を積み、2大会連続のオリンピック出場を果たし、オリンピックのエペ種目で日本人初、個人種目で福井県出身者初の8位入賞に輝きました。

今後も女性活躍の先陣を切り、一層ご活躍されることをお祈りします。

また、見延和靖選手が出場した9・10日は、いまだて芸術館で見延選手を応援するパブリックビューイングを開催しました。

9日午後11時15分に始まった2回戦では、イタリアのマルコ・フィケラ選手を15対8で破り、見延選手は見事に初戦を突破し、翌10日午前1時に始まった3回戦では、ロシアのアントン・アブデーフ選手に15対12で勝利して、ベスト8入りしました。

しかし、午前1時45分からの準々決勝では、世界ランキング1位の強豪・フランスのゴチエ・グリュミエ選手に残念ながら8対15で敗れました。

見延選手は、ロンドンオリンピックへの出場を逃した悔しさをバネに、心身ともに厳しい鍛錬を積み、昨年11月のワールドカップで金メダルを獲得するなど目覚ましい発展を遂げ、オリンピックのエペ種目で日本人最高、個人種目で福井県出身者最高となる6位入賞に輝きました。

4年後の東京オリンピックではメダルの獲得を目指し、一層ご活躍されることをお祈りします。

なお、オリンピックでの活躍を讃え、越前市は10月1日の「ふるさとの日」に、両選手に市民荣誉賞を授与します。

新庁舎の建設については、「まちの活性化とまち空間再生の大きな契機とする」を基本理念に、昨年9月に策定した新庁舎建設基本構想・基本計画に基づき、本庁舎と今立総合支所それぞれの基本設計を8月に策定しました。

本庁舎は、シンボル性やアクセス性に配慮し、「四方正面」の考え方を取り入れるとともに、あらゆる災害に対応する防災拠点機能と、市民利用のホールや広場等を併設することにより、市民が利用しやすく、多くの人で賑わう「オールインワン型庁舎」として設計し、今立総合支所は、景観に配慮し、既存施設との連携も図りながら、市東部地域の防災拠点としてはもとより、複合的な施設として設計しました。

引き続き12月に今立総合支所の、来年3月には本庁舎の実施設計を策定します。

なお、本庁舎の建設に伴い、8月から市民ホールと生涯学習センターの解体工事が始まり、武生東公民館は10月1日から武生東小学校の敷地内に移転します。

北陸新幹線については、鉄道・運輸機構が一昨年9月から行っていた沿線地区との設計協議が一部地区を除いて終了し、用地測量等を実施しました。

用地協議についても、8月から半数以上の町内で着手したところであり、秋頃には鉄道・運輸機構が駅舎の設計に入ります。

南越駅（仮称）の周辺整備については、昨年12月に策定した南越駅周辺整備基本計画の駅周辺整備コンセプトである「伝統・文化を未来につなぐ癒しと交流の空間」の実現に向け、9月末に概略設計を作成します。

人口減少への取組みについては、国が人口減少対策の基本理念を示した「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、本市における人口の将来展望を示す市人口ビジョン、並びに平成31年度までの目標や施策の体系を示す市総合戦略を昨年11月に策定しました。

市内企業の旺盛な求人を受け、働く人の確保と市内居住を促進する施策や、安心して出産や子育てができる環境をさらに整え、女性の幅広い社会進出を後押しする施策に取り組むことに力点を置き、「女性が輝くモノづくりのまち ～子育て・教育環境日本一～」をタイトルに掲げました。

短期的に取り組む施策としては、I・J・Uターンの促進や女性の雇用と起業に対する支援など、生産年齢人口の確保策に加え、市内居住促進のため、新たに住宅取得緊急支援事業補助金や従業員用共同住宅建設支援事業補助金などを設け、不足する住宅供給を促し、定住人口の確保に向けた取組みを促進しています。

伝統産業の振興については、昨年3月に策定した市工芸の里構想に基づき、産地の振興や産業観光による地域活性化に取り組んでいます。

越前和紙では、来年度のリニューアルオープンに向け、2月から紙の文化博物館の改修工事を行っています。

和紙の里通りから五箇地区、タケフナイフビレッジ、JR武生駅に設置した無料Wi-Fiも4月から稼働し、本年度は外国人旅行者向けの多言語対応案内等の整備を進めています。

また、越前和紙職人を主人公とした映画「つむぐもの」が制作され、

4月28日に主人公役の石倉三郎氏を迎え、いまだて芸術館で試写会が開かれるとともに、5月28日から30日には文化センター大ホールで、6月4・5日にはいまだて芸術館で上映会が行われ、多くの市民が鑑賞しました。

引き続き全国各地で上映されており、越前和紙のPRと需要の拡大、産業観光の推進に繋がることを期待しています。

越前打刃物では、昨年度から産地と協議を行い、打刃物拠点施設の整備に向けた基本計画を6月に策定しました。

この計画では、鎌やマグロ包丁などの伝統的な鍛造技術を継承し、後継者の育成を図るため、研修の場としての工房や、打刃物の歴史や製造工程を紹介する展示室、試し切りの体験コーナーなどの設置を予定しており、来年度に市工芸開放試験場を解体して、打刃物拠点施設の整備を行います。

越前箆笥では、昨年、国の認定を受けた越前箆笥振興計画に基づき、越前指物組合が実施する事業を支援するとともに、3箇年事業の2年目となる、若手職人による国宝「橘夫人厨子」の複製製作の支援も行っています。

本年は、「第33回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」が11月24日から27日までの4日間、本市のサンドーム福井を中心に開催されることから、県や鯖江市、越前町、各産地組合と連携し、各種イベントや工房ガイドツアーなどを行い、丹南地域に集積する5つの伝統的工芸品の情報発信に努めてまいります。

また、丹南地域の5つの伝統的工芸品と文化財、伝統文化を通して地域の活性化を図るため、文化庁の「日本遺産」の認定を目指し、本市と鯖江市、越前町、オブザーバーの県による検討会を3月に設置しました。

5つの伝統的工芸品に丹南地域の様々な文化財や伝統文化を絡ませたストーリーを作成し、来年2月に「日本遺産」への申請を行う予定です。

観光の振興については、越前市生まれの絵本画家・いわさきちひろの生家である「ちひろの生まれた家」記念館に、新たに展示室が設けられ、4月21日から特別企画展が開かれています。

平成30年の「いわさきちひろ生誕百年」に向け、ちひろ美術館と連携した取組みで、春・夏・秋は「窓ぎわのトットちゃん」、冬は「ゆきのひのたんじょうび」と題し、ピエゾグラフによる企画展示を行います。

第65回を迎えるたけふ菊人形では、「語り継ぐ 越前千五百年物語」をコンセプトに、菊人形館のテーマを「菊花繚乱 偉人たちの歴史絵巻」とし、10月6日から11月6日までの開催を準備しています。

武生中央公園の再整備に合わせ、菊人形や菊花の展示、土産物販売所の位置を変更するとともに、OSK日本歌劇団のレビューショーは文化センター大ホールで開催します。

開園30周年を迎えた紫式部公園では、紫式部像を創建当時の姿に戻す修復工事が完了し、9月3日に完成除幕式を行いました。

秋の行楽シーズンを迎え、多くの方に金色に輝く紫式部像をご覧いただくことを期待しています。

中心市街地の活性化については、9月末に第3期市中心市街地活性化基本計画を策定し、11月の国の認定を目指しています。

計画区域に位置する武生中央公園では、越前市出身で日本を代表する絵本作家・かこさとし氏の監修を受け、「次世代の人が育つ空間」「絵本の世界を映し出す空間」「地域活性化の核となる空間」をコンセプトに市民の広場などの整備を行っており、かこ氏の作品のモチーフを大型複合遊具や植栽、せせらぎ等に演出し、子育てに関わる豊かな文化を親子が共に体験し学ぶ場として、来年夏の完成を目指しています。

また、かこ氏の卒寿を記念し、3月に本市に寄贈された絵画を、来年夏までに文化センターの西側壁面に巨大な壁画として表現し、武生中央公園の再整備のシンボルにしていきたいと思います。

昨年11月末に廃止した文化センター中ホールについては、解体作業が9月末に終了することから、武生中央公園や中央図書館、文化センターの利用者の利便性向上を図るため、跡地への飲食店等の出店可能性調査を実施しており、その結果を踏まえ、年内に整備方針を決定する予定です。

平成30年の「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」に

については、本市で実施されるフェンシング・軟式野球・ソフトテニス・ソフトボールのうち、4月10日に武生中央公園庭球場がリニューアルオープンするとともに、本年度はソフトボールの会場となる武生東運動公園ソフトボール場の改修が予定されています。

また、武生中央公園の再整備に伴い、瓜生水と緑公園の隣接地に移転、整備を進めてきたサッカー場が、本市初のネーミングライツ（命名権）を導入し、4月29日に「武生特殊鋼材ドリームサッカー場」としてオープンしました。

コウノトリが舞う里づくりについては、本市の白山地区に1月からコウノトリがたびたび飛来し、3月25日に飛来したオスのコウノトリ「みほとくん」と、4月30日に飛来したメスのコウノトリ「ゆきちゃん」は、平成22年に飛来した「えっちゃん」の滞在日数（107日間）を超え、9月に入っても滞在を続けています。

来年春には自然繁殖として、福井県内で51年振りとなる産卵に大きな期待が寄せられています。

また、白山地区で飼育されているコウノトリのペア「ふっくん」と「さっちゃん」が4月に4年連続で産卵をしましたが、今回も残念ながら5個の卵が全て無精卵であったため、兵庫県立コウノトリの郷公園から有精卵の提供をいただいて托卵が行われ、5月30日に2羽のヒナが誕生しました。

この2羽のコウノトリは、9月25日に本市の坂口地区で放鳥されます。

今後も引き続き、コウノトリの野外定着に向けた環境整備を推進してまいります。

以上、当面する市政の重要課題について、取組みの一端をご紹介しました。

今後も「元気な自立都市 越前」の創造を目指して、市民と協働のまちづくりを推進してまいりますので、武生郷友会の会員の皆様には、ふるさと納税をはじめ市政に対する引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。